

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

大分県 豊後大野市

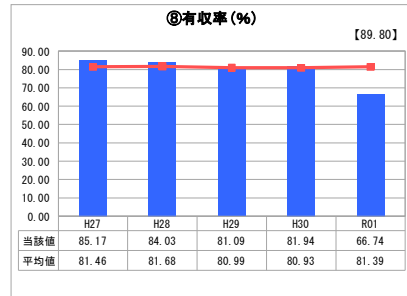
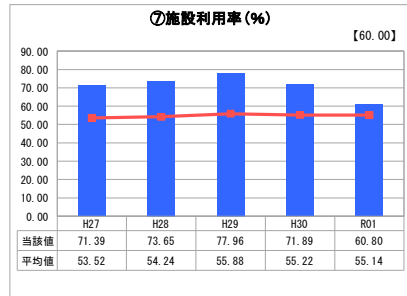
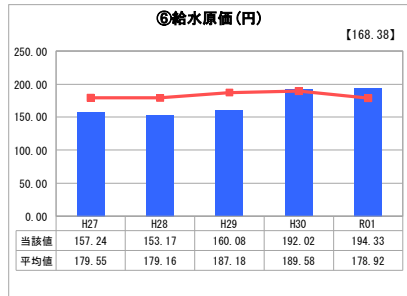
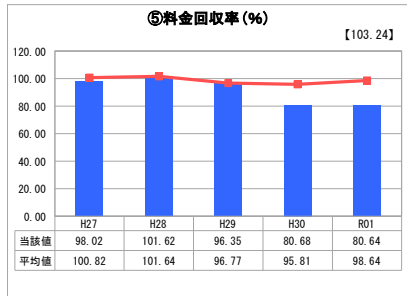
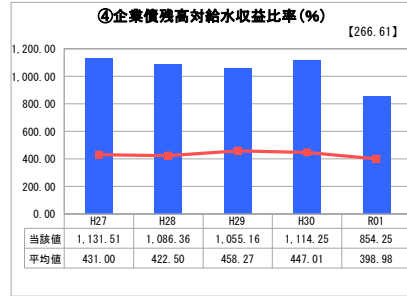
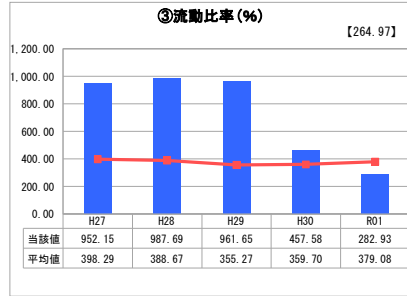
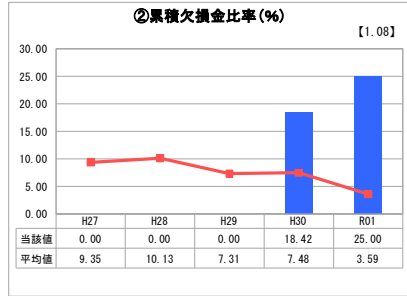
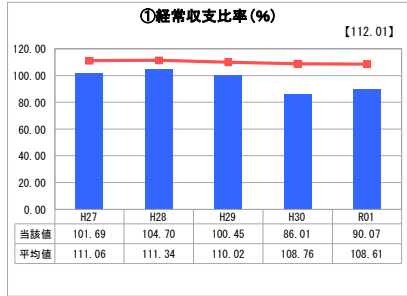
業種名	業種名	事業名	類似団地区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	36.05	67.07	3,200	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
35,377	603.14	58.65
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
23,536	99.20	237.26

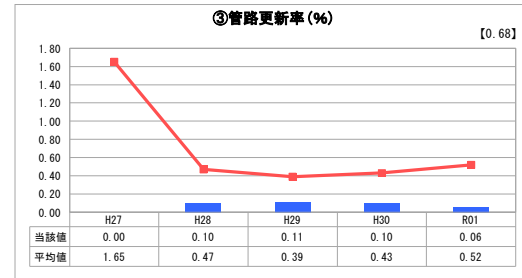
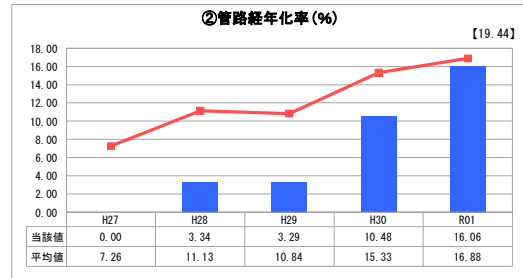
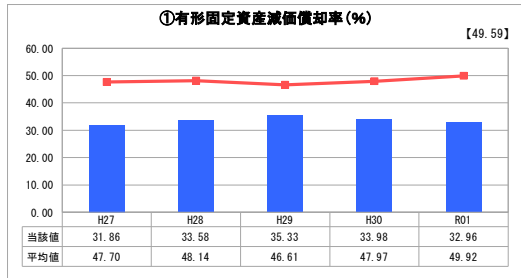
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 『経常収支比率』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄えているかを示す指標。
- 『累積欠損比率』・・・営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標。簡易水道を経営統合したことにより増加しています。
- 『流動比率』・・・流動負債に対する流動資産の割合で短期債務に対する支払い能力を表す指標。全国平均、類似団体平均を上回っていましたが、簡易水道を経営統合したことにより悪化しています。
- 『企業債残高対給水収益比率』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。
- 『料金回収率』・・・給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを表す指標。簡易水道を経営統合したことにより悪化しています。
- 『給水原価』・・・有収水量1mあたりについてどれだけ費用がかかっているかを表す指標。簡易水道を経営統合したことにより上昇しています。
- 『施設利用率』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。簡易水道を経営統合したことにより悪化はしていますが、全国平均、類似団体平均を上回っており健全であるといえます。
- 『有収率』・・・施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。簡易水道を経営統合したことにより悪化しています。

### 2. 老朽化の状況について

- 『有形固定資産減価償却率』・・・有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。新浄水場建設により数値が低くなっています。
- 『管路経年率』・・・法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標。簡易水道を経営統合したことから経年率が上昇している。計画的に更新していく必要があります。
- 『管路更新率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。今後は計画的に更新していく必要があります。平成30年度策定した施設更新計画により更新を行っていきます。

### 全体総括

平成27年度に新浄水場を建設し、平成30年度から千歳簡易水道を平成31年度から残りの犬飼・大野・清川・緒方の各簡易水道を経営統合したことから、経営悪化・施設の老朽化が見られる。しかし、簡易水道の経営統合が済んだことから、今後さらに経営悪化となる大きな要因はなくなったと考えられる。よって、新浄水場の企業債の償還及び老朽施設、老朽管の更新等が必要ではあるが、経営戦略等に沿って施設更新等を行うと共に、更なる経営の効率化の検討が必要となります。